

# まちづくりミーティング開催結果概要



## 開催テーマ 若者から見た桐生市の魅力

### 参加者

株式会社 Yield 5名  
桐生市長

傍聴者 2名  
報道機関 4名

日時：令和4年5月18日（水）午後5時～6時  
場所：彩-iroha-

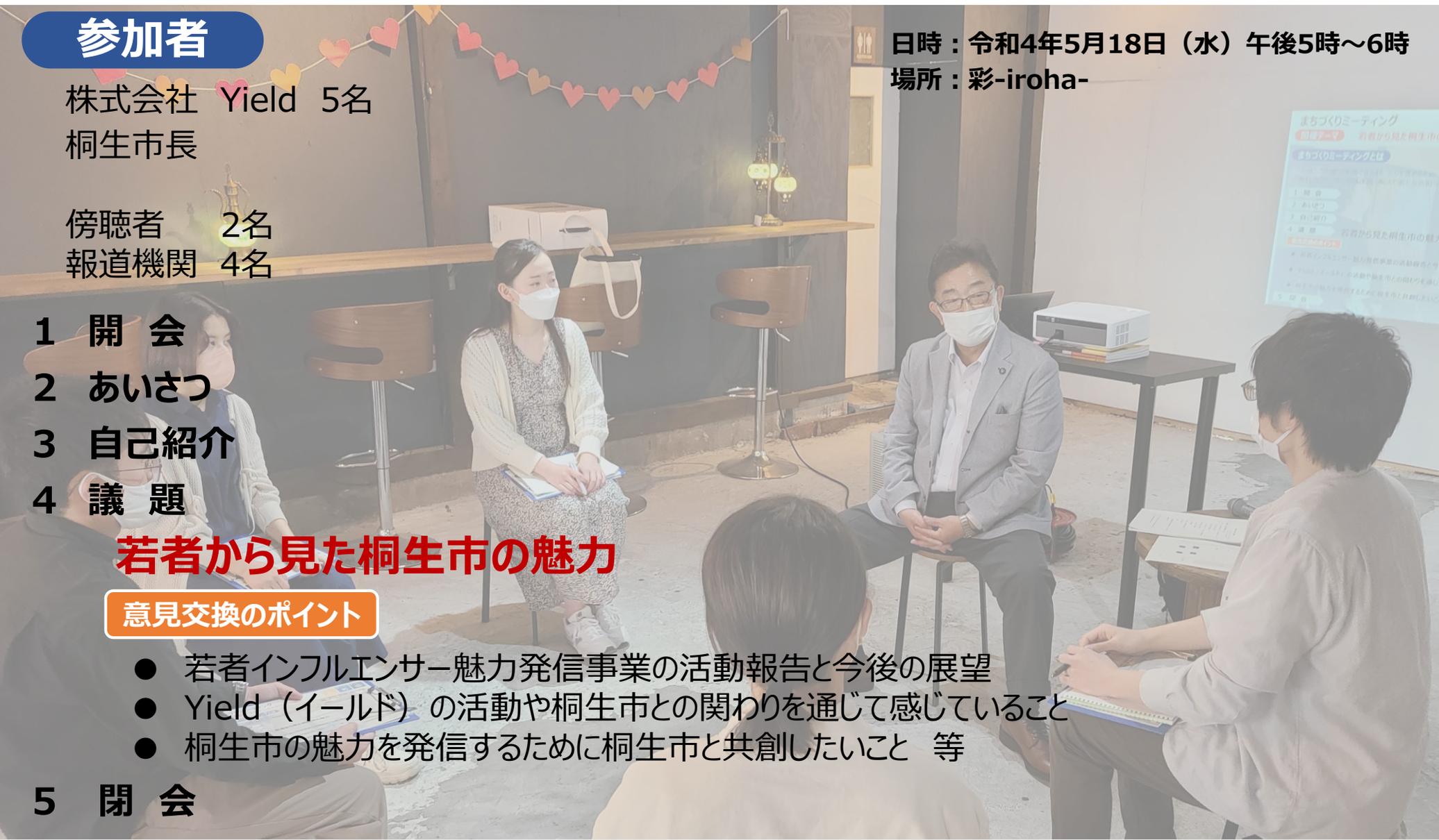
- 1 開会
- 2 あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 議題

## 若者から見た桐生市の魅力

### 意見交換のポイント

- 若者インフルエンサー魅力発信事業の活動報告と今後の展望
- Yield（イールド）の活動や桐生市との関わりを通じて感じていること
- 桐生市の魅力を発信するために桐生市と共創したいこと 等

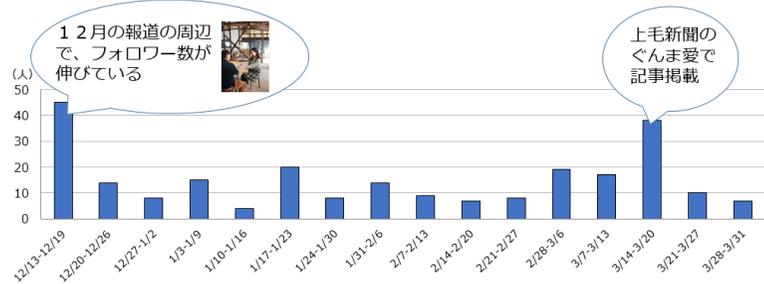
- 5 閉会



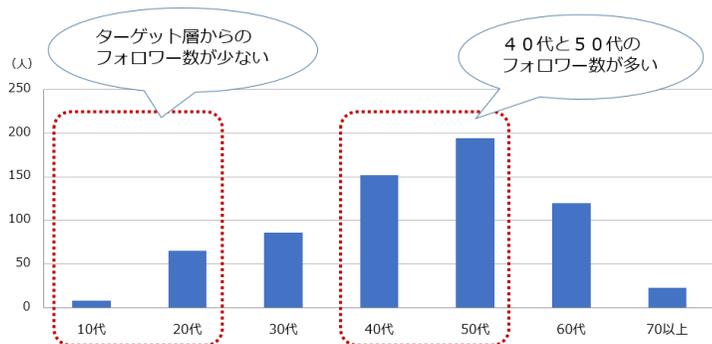


## フォロワーの増減

フォロワー：648人  
投稿数：26投稿 ※R4.3.31時点



## 年代別フォロワー数



令和3年度の若者インフルエンサー魅力発信事業の活動報告について説明する。本事業は、若者が気軽に使う代表的なSNSであるInstagramを利用し、「桐生CHARM」のアカウントで、同世代向けのおすすめスポットや周遊コース等を提案するものである。

26回の投稿を行った結果、令和4年3月31日時点では648人のフォロワーの獲得に繋がった。

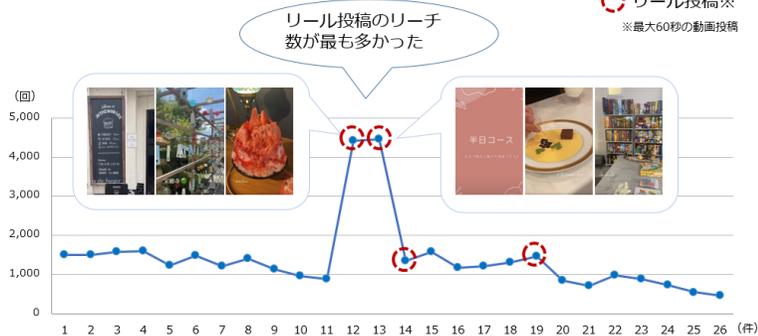
フォロワーの増減を見ると、12月と3月に多くの増加が見られた。これは、広報きりゅうと上毛新聞のぐんま愛の記事が掲載された際に「桐生CHARM」のQRコードが周知できたことが要因であると考えられる。

年代別フォロワー数を見ると、40代と50代が多く、全体の50パーセント以上を占めた。その一方でターゲットとした10代と20代のフォロワー数が少なかったため、この点を課題と捉えている。

投稿別リーチ数を見ると、リール投稿が最も多かった。60秒以内の短い動画で投稿する手法は若者も多く用いており、気軽に見ることができるため、リーチ数が伸びたのではないかと考える。

## 投稿別リーチ数

リール投稿※  
※最大60秒の動画投稿



## 令和4年度の新しい取り組み

- ・ターゲット層の意見を取り入れた取材先の選定
- ・音声付きのリール投稿

- ・投稿の方法を変える  
→①商品の写真  
②お店の雰囲気伝える写真  
③動画



令和3年度の状況を踏まえ、令和4年度の取組では、10代と20代のターゲット層のフォロワーを獲得するため、

- ・ターゲット層の意見を取り入れた取材先の選定
  - ・音声付きのリール投稿
  - ・投稿の方法を変える
- の3点を考えている。

取材先の選定については、若者向けに特化した店選び等を意識し、投稿に寄せられた意見も踏まえながら検討していきたい。

リール投稿については、BGMに加え、音声を追加したい。

投稿内容については統一感を持たせたいと考え、Instagramの画面表示は3列であることから、①商品の写真、②お店の雰囲気を伝える写真、③動画を表示する。

取材を通して関わった人たちは、桐生市に対する愛情を強く持っており、桐生市を盛り上げたいと考えている。そうした想いを、この事業を通じて、わたしたち学生・若者世代に向けて発信することで、桐生市に関わるきっかけ作りをして、盛り上げていきたい。

(市長)

この事業を開始するに当たり私からお願いしたのは、最初から完成形を目指すのではなく、できることから取り組んでもらい、見つけた課題を一つひとつ解決していくことを積み上げ、完成形としていってほしいということである。

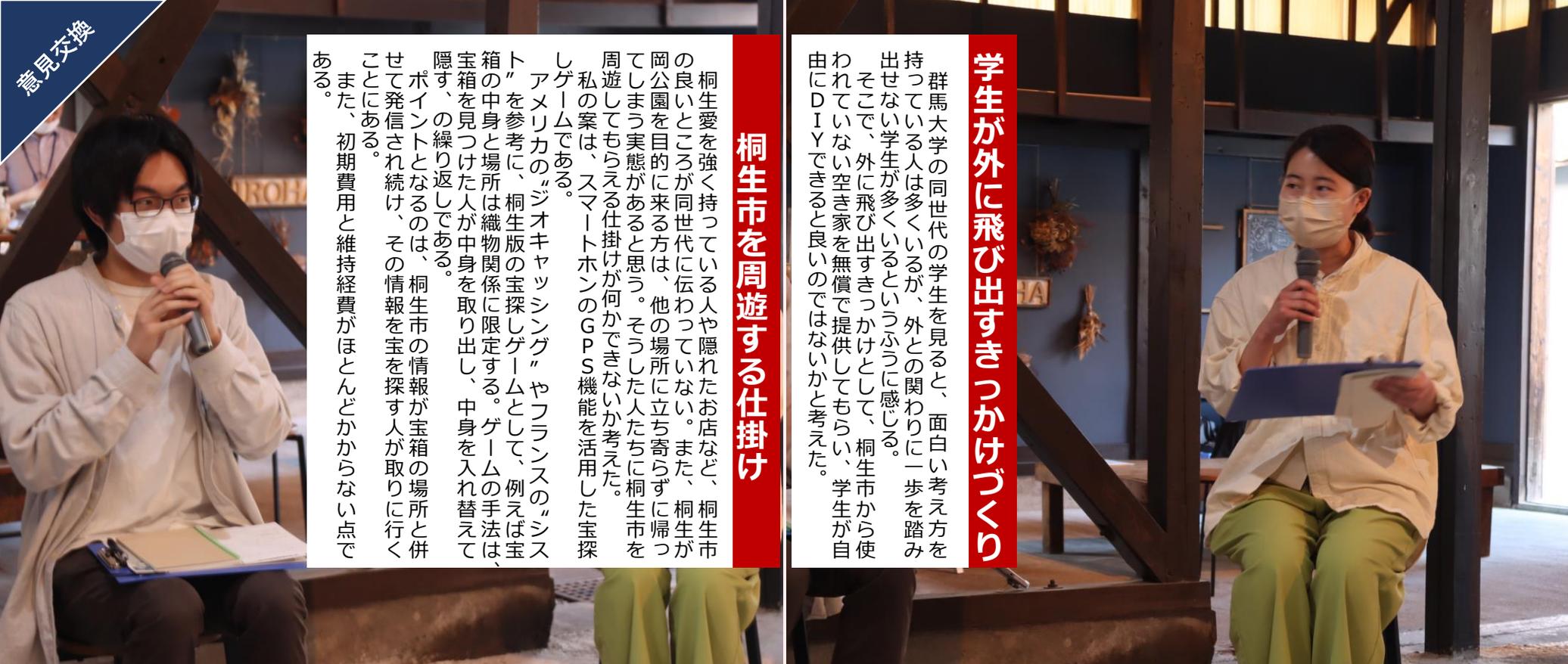
そうした中で、課題が見つかったのは非常に良いことだと思う。令和4年度はその解決に向けて取り組んでもらい、この事業を更に深化させてほしい。

フォロワー数が報道に取り上げてもらうことで増加したとの説明があった。様々なメディアをミックスして活動をPRすることで効果が上がると思うので取り組んでほしい。また、そのためには、報道関係者とうまく付き合っていくことも重要である。

若者をターゲットした情報発信を行い、その情報を受け取った若者がその情報を発信していくことが良い循環を生み出すと思う。

今後、桐生市でも市内の日本遺産を小中学生が案内できるような、ボランティアガイドを育成したいと考えている。子どもたち自身が魅力を感じ、その魅力を自分の言葉で発信できる取組にしたいと考えているので、イールドの取組で連携できることがあれば、お願いしたい。





意見交換

## 学生が外に飛び出すきっかけづくり

群馬大学の同世代の学生を見ると、面白い考え方を  
持っている人は多くいるが、外との関わりに一歩を踏み  
出せない学生が多くいるというふうを感じる。  
そこで、外に飛び出すきっかけとして、桐生市から使  
われていない空き家を無償で提供してもらい、学生が自  
由にDIYできると良いのではないかと考えた。

## 桐生市を周遊する仕掛け

桐生愛を強く持つている人や隠れたお店など、桐生市  
の良いところが同世代に伝わっていない。また、桐生が  
岡公園を目的に来る方は、他の場所に立ち寄らずに帰っ  
てしまう実態があると思う。そうした人たちに桐生市を  
周遊してもらえる仕掛けが何かできないか考えた。  
私の案は、スマートホンのGPS機能を活用した宝探  
しゲームである。  
アメリカの“ジオキャッシング”やフランスの“シス  
ト”を参考に、桐生版の宝探しゲームとして、例えば宝  
箱の中身と場所は織物関係に限定する。ゲームの手法は、  
宝箱を見つけた人が中身を取り出し、中身を入れ替えて  
隠す、の繰り返しである。  
ポイントとなるのは、桐生市の情報が宝箱の場所と併  
せて発信され続け、その情報を宝を探すが取りに行く  
ことにある。  
また、初期費用と維持経費がほとんどかからない点で  
ある。

(市長)  
桐生市から空き家を無償で提供す  
ることについては、検討が必要であ  
るが、桐生市では空き家対策として、  
空き家・空地バンクを運用しており、  
職員による動画配信による成果も  
あつて契約に結び付いているが、空  
き家は今後も増えて行くことが想定  
される。  
また、桐生市内にあるノコギリ屋  
根工場について、民間によるリノ  
ベーションが進んでいるが、活用さ  
れていない物件もあると思う。活用  
策を考える際には、若い世代の目線  
でアイデアをもらいたいと思うの  
でお願いしたい。



(市長)  
今までに実施したことのない新し  
い取り組みだと思つた。  
桐生市では、昨年度から子どもが  
つくるまちミニきりゅうを実施して  
おり、その中で実施することも面白  
いのではないかと思つた。連携でき  
る部分があれば、お願いしたい。

## 店舗と店舗を繋ぐ

ワールドの活動を通して、桐生市内の飲食店に詳しくなったことから、友人にオススメの店舗を聞かれることが多くなったが、オススメを聞かれるのは、自分たちで探すことが難しいからではないかと考えた。そのため、店舗にその店舗がおすすめする店舗を紹介するカード等を置き、リレー形式でお店を繋ぐ仕組みができないか考えた。



## 若者の目線を変える

炭水化物なまち実行委員会など、桐生市を盛り上げた人が多くいる中、私たち学生をはじめとする若者が同じ目線に立てていないと感じている。そこで、何かきっかけ作りになるイベントはできないかと考え、例えば群馬大学の学園祭で、市民の誰でも参加可能でスキルを発表できるイベントの開催を考え、メリットとすると、参加者のやりたいことの実現、多世代交流ができることが考えられる。



(市長)

店舗がオススメの店舗を紹介するという試みは中々ない仕組みだと思ふ。すぐに仕掛けられる取組になるのではないかと思うので、魅力発信事業の中で取り組んでもらえると面白いと思う。



(市長)

以前に実施したワールドとの意見交換で、市長は大学の先生との交流はあるが、学生の意見を聞く場を設けていないとの指摘を受けた。

我々も、若者の目線での気づきを伺うことも重要であると考え、こうしたミーティングの実施や若者インフルエンサー魅力発信事業に繋がった。

多世代交流ができるイベントとしては、3月にまちづくりミーティングを実施した繊維関係者の動向や私の公約で秋頃に実施したいと考えている桐生版スモールビジネスサタデーなど、様々なイベントがある中で、そうした中で連携することも考えられる。



桐生市を好きな人は桐生市のことに詳しい人だと思う。私は桐生市の出身ではないが、桐生市との関わりを深めていくことで桐生市を好きになった。

また、私が自分の生まれ育った地元を好きのように、地元の人を暮らしの中で、無条件に地元が好きになると思う。

そのため、桐生市の魅力を伝えるに当たっては、桐生市を知ってもらう取組も重要ではないかと思ひ、案を考えた。

私の案は、No.6（ブイログ）を使い、例えば、私たち群大生の1日、おススメする店舗の1日を発信することである。

また、市長の1日に密着させてもらい、市長の目線で見ると桐生市を発信すると、桐生市を知ってもらう面白い取組になると考えた。

**桐生市を知ってもらう取組**



（市長）  
桐生市を知ってもらう取組は、その後には繋げる取組として、非常に重要であると思ひます。

私の目線での情報発信については照れてしまうかもしれないが、桐生市を知ってもらうための一助となるのであれば、喜んで協力するので、よろしくお願ひしたい。



(市長)

昨今、桐生市では市外からの転入者が空き店舗を活用した店舗を開設しているほか、第1土曜日を盛り上げようと共通の機を掲げて活動を始めた「unknow(アラク)」など、様々な動きが起こっている。

元々桐生市にいる人や転入者、そこに市外の人も加えてタッグを組み、桐生市を盛り上げていくことが重要だと考えているので、皆さんの活動もこうした動きの中で様々な連携をしても良いと思うし、我々も繋げていくので、よろしくお願ひしたい。

また、イールドの皆さんの活動が持続できるように、新入生などの新しいメンバーを入れ、DNAを受け継いでもらって、取組の完成形を目指してほしい。

今後、本日のような意見交換の場をどんどん設けていきたいと考えているので、桐生市と一緒にこういうことをやりたいといった意見を寄せていただきたいと思います。

引き続き、よろしくお願ひしたい。